

院内感染対策における 当院での工夫

神戸市立医療センター中央市民病院

感染管理室 院内啓発班

脳神経内科 石井淳子・石山浩之・中澤晋作

コンセプト

- 新型コロナウイルスによる院内感染対策については、すでに多くの医療機関がその難しさに直面し、様々な予防策を講じ報告されている。
- 患者トリアージや徹底した標準予防策、感染経路別予防策などについては別項に譲り、ここでは特に“院内啓発”の観点で工夫した点をまとめている。

院内啓発に向けて

- 感染対策においては、一般的に、3密を避ける、フィジカルディスタンスを保つ、徹底した手洗いをするなど、やるべきことを理解はされていても、確実に実行されなければ意味がない。
- 実行されるかどうかは、個々の危機感に左右され、その温度差が大きな問題となってくる。
- 特に医療従事者においては、患者を受け入れ対応し、多大なストレス、不安を抱える中で、さらに行動規制を強いられる状況になり、方法によってはストレスを増強し、逆効果になりかねない。

院内啓発に向けて

- “みんなで心を一つにしながらか感染拡大予防に取り組めること” をコンセプトに、院内掲示ポスターを独自に作成。
- “ほっこりでき、時には少しシニールに、ユーモアを交えつつ、感染拡大予防の行動を浸透させる” ようなポスターにすることで、過度の圧迫感なく職員全体の意識を高めることを目指した。
- 作成したポスター等の一部をご紹介します。

食堂などでの食事中に

- ・ 食事中の会話は特に感染のリスクが高いとされることを周知



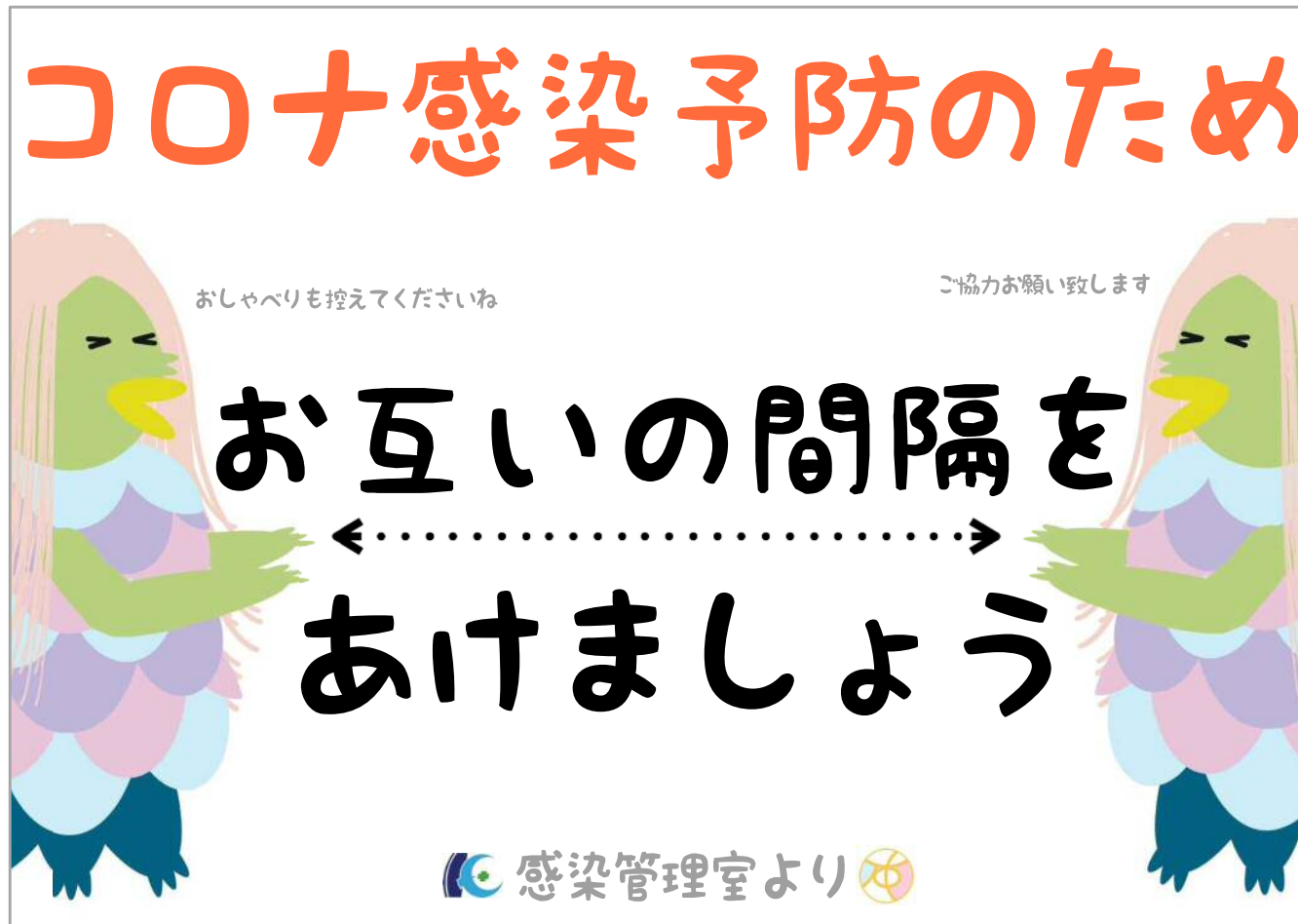
院内の至る所で

- フィジカルディスタンスを保つためにアマビエも登場させて



院内の至る所で

- 患者さんが使用する休憩スペースなどに向けてはさらにやさしい文言で協力を依頼



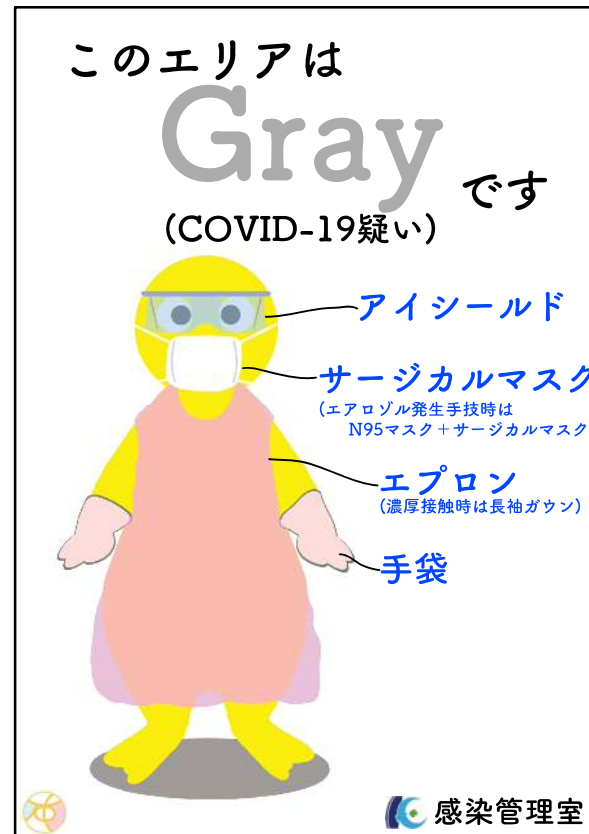
医局など密集しやすい場所に

- 日々刻々と変化する状況に対応し、診療体制や治療方針について話し合っているとつい密になりがちで・・・



院内ゾーニング

- 患者数増大や感染経路不明者割合増大に伴い、病棟再編成が必要に。
- 新型コロナウイルス陽性患者、疑い患者、限りなく疑いは低い患者の3群に分け、エリアごとに間違いなくPPEを着用するために病棟入口に掲示。



チェッカー導入

- 病棟での適切なPPE着用や手指衛生の徹底のため、チェッカー役を導入。
- 看護師、リハビリ療法士、医師など他職種が担当し、全体の意識向上に。



最後に

- 現在、日本全国での行動自粛の効果が現れ、コロナウイルス感染第1波がようやく落ち着きをみせている。しかし、自粛解除に伴う第2波に対する備えが必須であり、引き続き警戒が必要である。
- 厳格な実行が必要な院内感染対策において、癒やしの要素を織り込むことで、職員のストレスを軽減しつつ皆の協力を得るのがポイント。
- 皆様の参考になりましたら幸いです。ポスターやバッチは病院および制作者のロゴ入りですが、よろしければご自由にお使いください。ともに感染対策に取り組めますことを願って。